

少ない社会人入学

先日、大学進学 of 年齢について興味深いデータを見た。25歳以上になってから大学に進学する人の割合は、日本ではわずか2.0%であるが、OECD諸国全体では21.1%である。日本では大学に入学する人の50人に1人しか25歳以上の人はいないのに、先進国平均では5人に1人となっている。

重元 伊藤 機構開発研究 伊藤 元重 教授 東大 理事 伊藤 元重 教授 東大 理事

22%であるという。

私たち日本人は高校へ行ったらすぐ大学に行くのが当たり前と考えている。だから多くの若者が社会経験をしないまま大人になる。社会に出たら二度と大学に戻らないという人が大半である。スウェーデンでは、高校を出てから10年

25%、韓国は107%、イギリスは91%であるという。これらの国の数値が大きい(100%を超えるものもある)というのは、ある程度の年齢になってからもう一度大学(職業学校)に通うという選択をする人が多いということの意味する。つまり、人生のうちに

40歳でも、あるいは退職後でもよいので、大学にもう一度通って新しい知識や技術を吸収する機会を持つべきだ。2回目の大学なり、4年行かなくてもよい。1、2年の専門コースでもよいし、専門大学院コース(ビジネススクールなど)でもよい。

会に出てみた方が、自分がどんな知識を身につけたいかよく分かるからだ。大学の方も変わらなければいけない。今の入試制度では、社会人になってからの入学、あるいは二度目の入学などは簡単ではない。いろいろな経歴の人を受け入れるために、入学の制度も多様にしなければいけない。大学のキャンパスにいろいろな年齢や経歴の人が集えば、それだけ大学が刺激的な場所にもなるはずだ。

日本の大学 抜本見直し必要

入試の制度多様に

ぐらい動くというケースはさらにあるようだ。社会経験を積むだけでなく、大学に通うための貯蓄もして、それから大学に来る人が結構多いという。

2回以上大学に行く人がたくさんいるということだ。日本の高等教育について、本格的な見直しが必要な時期に来ているようだ。世の中の変化が激しい時代に、若いときに大学に行ったり、後は一生で二度と本格的な高等教育を受ける機会がないというのではまずいだろう。30歳でも

私の昔の教え子が、大学でもっと勉強しておけばよかったとよく言う。社会に出てみて、はじめて大学で提供されている科目の意義が分かったという。それならもう一度大学に入ってくればよいではないか、と言うことにしている。ただ、若い人には、大学に入ってくる前に一度社会人の経験をしてみること考えてもらいたい。社

社会が発展するためには、高度人材を多く育成することが鍵となる。大学の責任は大きい。今こそ、本格的に大学のあり方、利用の仕方について、きちっと考える時代

構多いう。

もう一つ面白いデータがある。日本での大学(職業学校も含む)への進学率は78%程度である。それに対してニュージーランドは1

30歳でも

社

時代

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。